

製品名: PAK2 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80749**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	61kDa

抗原情報

遺伝子名	PAK2
別名	PAK65; PAKgamma
遺伝子 ID	5062.0
SwissProt ID	Q13177
免疫原	大腸菌で発現した PAK2 の精製された組み換え断片。

背景

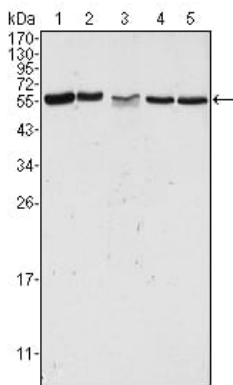
PAK2 は、P21 (CDKN1A) 活性化キナーゼ 2 としても知られています。p21 活性化キナーゼ (PAK) は、Rho GTPase を細胞骨格再構成および核シグナル伝達に結び付ける重要なエフェクターです。PAK タンパク質は、低分子 GTP 結合タンパク質である CDC42 お

よび RAC1 の標的となるセリン / スレオニンキナーゼファミリーであり、幅広い生物学的活性に関与することが示唆されています。PAK2 は、カスパーゼを介したアポトーシスの際にタンパク質分解によって活性化され、死にゆく細胞におけるアポトーシスの制御に関与している可能性があります。PAK2 は、SH3KBP1、CDC42、および Abl 遺伝子と相互作用することが示されている。

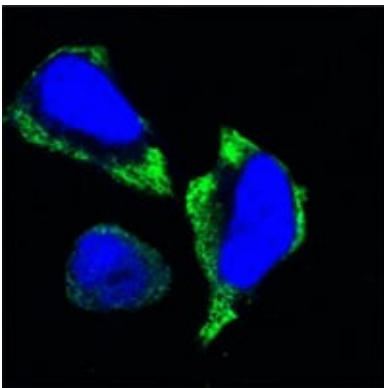
研究分野

アポトーシス、MAPK シグナル伝達経路

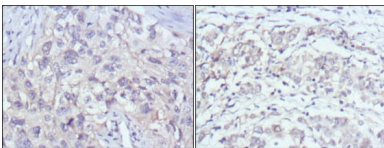
画像データ



Hela (1)、Jurkat (2)、A549 (3)、HEK293 (4)、および K562 (5) 細胞溶解物に対する PAK2 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



PAK2 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の共焦点免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



PAK2 マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋ヒト肺癌 (左) および胃癌 (右) の免疫組織化学分析。